

同志社大学発明提案書(発明届)兼 譲渡証

(申請者→同志社大学知的財産センター)

申請日 2026 年 4 月 1 日

申請書提出日をご記入ください。

同志社大学発明規程を理解し、提案した発明に関する特許を受ける権利について、学校法人同志社に譲渡することを

発明の名称	吸音材およびその製造方法	発明創出日	2025 年 3 月 1 日
-------	--------------	-------	----------------

※国内優先権主張出願の場合は□ボックスにチェック☑の上、基礎出願番号

国内優先権主張出願以外の場合は不要です。

国内優先権主張出願	☒	基礎出願	整理番号:知発 0123	日	2023 年 10 月 1 日
			出願番号:特願 2023-123456	発明追加の有無	☒ 有 ☐ 無

※学内発明者の情報を記入して下さい。(英字表記含む)

代表発明者 (申請者)	氏名:知財 太郎 Name:CHIZAI Taro TEL:6900 Email:〇〇@mail.doshisha.ac.jp	所属:〇〇学部〇〇学科 職名:教授	発明への寄与度:50%
学内共同 発明者	氏名:発明 次郎 Name:HATSUMEI Jiro	所属:〇〇学部〇〇学科 職名:准教授	学内発明者で発明の寄与度が合計 100%となるようにご記入ください。
学内共同 発明者	氏名: Name:		発明への寄与度: %

※学生共同発明者の情報を記入して下さい。学生共同発明者が複数希望する場合の□ボックスにチェック☑して下さい。

学生共同 発明者	☒ 氏名:新島 一郎 Name:NILJIMA Ichiro	所属:〇〇研究科 学生 ID:1234567890	発明への寄与度:50%
	発明への寄与内容(発明の構成要件のどの部分に寄与したかを具体的に記入して下さい。) 竹繊維の爆砕処理の回数についての最適条件の提案や、低融点樹脂と高融点樹脂からなる複合繊維の添加量の提案を行い、学生自身の実験により実証した。学生自身の着想、実証実験結果が、本発明の構成要件の一部となっている。		
学生共同 発明者	☐ 氏名: Name:	所属: 学生 ID:	発明への寄与度: %
	発明への寄与内容(発明の構成要件のどの部分に寄与したかを) 単なる実験補助者ではなく、真の発明人に該当する発明者であることをご説明ください。		

※学外共同発明者の情報を記入して下さい。

学外共同 発明者	氏名:企業 三郎、技術 ひかる 所属:〇〇技研株式会社	本学以外の共同発明者を指します。 氏名と所属をご記入ください。
-------------	--------------------------------	------------------------------------

※発明に使用した研究費や設備について、該当する□ボックスにチェック☑して下さい。

発明に使用した 研究費	主	研究費種別	☐ 大学支出金(実験実習費) ☐ 大学支出金(個人研究費) ☐ 奨学寄附金 ☐ 受託研究費 ☒ 共同研究費 ☐ 公的資金 ☐ その他()
		研究題目	〇〇開発に関する研究
		資金提供元	〇〇技研株式会社
	その他	研究費種別	☒ 大学支出金(実験実習費) ☐ 大学支出金(個人研究費) ☐ 奨学寄附金 ☐ 受託研究費 ☐ 共同研究費 ☐ 公的資金
		研究題目	なし
資金提供元		同志社大学	
	研究費総額	1,000,000 円	
発明に使用した本学設備 (設備、場所等)		竹繊維開繊機、高温炉、爆砕装置、音響管(YM〇〇〇)	
当該発明に関する 共同研究契約等の有無		☒ 共同研究契約 ☐ 受託研究契約 ☐ 秘密保持契約 ☐ その他() ☐ 無し	契約 相手 〇〇技研株式会社

※本発明の帰属や今後の展開について記入して下さい。

帰属に関する見解	例 1:〇〇技研との共同研究による成果であるため、本学と〇〇技研に帰属するのが妥当である。 例 2:公的資金ならびに本学の研究費を利用した、本学の研究成果であるため、本学に帰属するのが妥当である。		
共願先	〇〇技研株式会社 or なし	持分に関する見解	本学:〇〇技研=50:50
発表予定	発表先:日本騒音制御 発表者:知財 太郎(本学)、技術 ひかる(〇〇技研株式会社) 発表日:2026 年 6 月 1 日~3 日 発表予稿の公開日:2026 年 5 月 20 日		
外国出願について	☐ 希望する ☐ 希望しない ☒ 現時点では未定		

発明への寄与度からご記入ください。
本学単独出願の場合は、本学 100%とご記入ください。

発明の概要

従来技術・課題

多孔質吸音材量の代表例として、グラスウールやロックウール等、ガラス繊維を用いたものがあるが、繊維が空中に飛散しやすく、また焼却や土中廃棄が困難であることから、環境面に与える影響が大きい。この問題を解決するために、天然素材を使用した多孔質吸音材量の提供が試みられている。例えば特開平 7-216191 には竹繊維単独または他の繊維との混合集合体に樹脂を混合し、加熱成形した構造体が提案されていて、その用途の一つとして吸音材が挙げられているが、吸音特性としては劣るものである。本発明は、グラスウールと同等の吸音特性を有し、かつ環境にやさしい吸音材を提供することを課題とする。

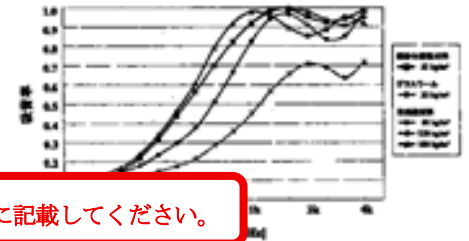
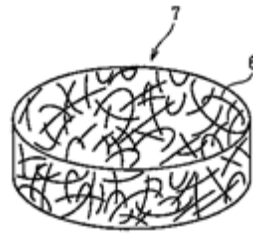
解決手段

竹材に複数回の爆砕処理を施し、さらに機械的な開繊処理を加えて、直径が $5\sim 30\mu\text{m}$ の単繊維を取り出し、これに低融点樹脂と高融点樹脂からなる複合材料を混合して目標の吸音特性に合わせた密度に加熱成形する。

発明により得られる効果

竹繊維を爆砕処理と機械的な開繊処理により細繊維化されグラスウールと同一の繊維密度を得ることができるようになり、同等の吸音特性を得ることができる。

従来技術のどのような問題を解決する目的の発明であるかを記入してく



発明のポイントを具体的に記載してください。

本発明を実施できる用途、どのように技術移転をしていくか、現在の予定をご記入ください。

用途、技術移転計画 (時期、相手先)	例 1: ○○技研株式会社で吸音材として製品化予定がある。		
	例 2: 現在のところ技術移転先は見つかっていないが、共同研究を実施している○○会社をはじめ、数年以内に▲▲系企業への技術移転が可能と考える。		
	例 3: □□での用途が考えられるため、□□企業の企業向けの展示会への出展を行い、技術移転先を見つける予定。		
発明者所見	1. 発明の位置づけ	☒ 基本概念発明	☐ 既存技術の応用・改良発明 ☐ 小工夫
	2. 技術完成度	☐ 実用性確認レベル	☒ 実験レベル ☐ アイデアレベル
	3. 用途	☐ 明確な対象あり	☐ 期待できる対象あり ☒ 今後検討
	4. 代替技術	☐ なし	☒ あり(優位性大) ☐ あり(同等)
	5. 実用化までの課題	☐ ほとんどない	☒ あるが対応策あり ☐ 見通し不明

(知財コーディネーター所見欄) 担当 CD:

発明の種類	☐ 物の発明(プログラム等を含む) ☐ 方法の発明 ☐ 物を生産する方法の発明 ☐ その他()		技術 分類	JST 外国出 願支援申請	アイテムを選択してくだ さい。
国内優先権主張出願の場合	☐ 発明追加の有無(☐ 有 ・ ☐ 無)			発明評価 委員会	アイテムを選択してくだ さい。
先行技術調査結果 (公知技術の有無)	(本学単独出願、非営利機関との共同出願時に記入)				
権利化のポイント (想定請求項等)	(本学単独出願、非営利機関との共同出願時に記入)				
備考					
(産学連携コーディネーター所見欄) 担当 CD: 市場性・有用性に関する見解			(本学単独出願時のみ記入)		

(知的財産センター記入欄)

受付日	整理番号		出願手続き主管	
	発明委員会 審議結果		特許事務所	
	持分割合			
	出願費用負担割合			
	公的資金による成果の場合	☐ 願書への記載(要 ・ 否) ☐ 報告義務(要 ・ 否)		